

日本文学研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

鳥羽 耕史・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】1950年代は、商業紙誌、サークル誌、映画、テレビ、演劇、絵画、紙芝居、幻灯など、様々なメディアで「記録」が展開された時代であった。ここでは、必ずしも「マス(大量の)」受け手に向けられたものではないが、「マス(大衆)」としての受け手を志向したメディアにおける「記録」を紹介しながら、その今日的意義を考えてみたい。

【授業概要】プリントや映像を教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】文学、映画

【関連科目】『日本文学講読 III』(1.0)、『日本文学演習』(0.5)

【履修上の注意】授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】豊かな「記録」の遺産に触れ、客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 1950年代概論
3. サークル誌の「記録」
4. 生活記録運動と幻灯
5. 国民的歴史学運動と紙芝居
6. ルポルタージュの実験
7. ルポルタージュ絵画の展開
8. 岩波映画のドキュメンタリー
9. テレビドラマと「記録」(1)
10. テレビドラマと「記録」(2)
11. ダムをめぐる「記録」(1)
12. ダムをめぐる「記録」(2)
13. ダムをめぐる「記録」(3)
14. 基地をめぐる「記録」
15. まとめ
16. レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での議論への参加、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。教材として映像やプリントを使用する。

【参考書】鳥羽耕史『1950年代「記録」の時代』(河出書房新社, 2010年)など。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218940>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), to
ba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間の直後)